

祝 辞

温暖化問題に積極的に切り込め

参議院議員 草川 昭三

エネルギージャーナル社が新たに太陽光、風力などの自然エネルギーに着目し、その市場動向と関連の政策・施策を取り上げる専門誌として「PV+」を発刊されることになった。いま世界中が「グリーンイノベーション」を合言葉に、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素など温室効果ガス排出量を、2050年ごろには現在の1/5に減らすべく壮大な事業が展開され、そのために国際的な協議も国連において粘り強く続けられている。

こうした化石燃料の使用を大幅に減らすためには、一人一人がエネルギーの無駄遣いをなくすライフスタイルの確立と、交通手段や産業構造のあり方を低炭素型の仕組みに変えることが何よりも重要である。しかし言うは易く行うは難い。例えば欧米先進国の主要都市では自動車に代わるものとして、自転車による出勤が日常的になっている。日本のような自動車中心の道路政策



を転換し、車道を一車線減らしても自転車専用道をつくり、さらに主要駅には数百台の自転車の駐車場がつくられているのだ。

こういうことを経済大国・日本は学ぼうとせず、相変わらず景気対策のために従来的高速道路など道路中心の公共政策が続けられている。高速代金の無料化などは、自動車中心の発想であり、無料化ならば、環境汚染税としての環境税を自動車使用者は当然支払うべきであろう。20世紀の自動車、道路中心の交通政策を21世紀は大胆に転換することが求められている。政治家の任務は重い。

「エネルギーと環境」40年継続発行という貴重な積み重ねのうえに、さらに21世紀の最大課題である地球温暖化問題に積極的に切り込もうとする、清水文雄編集長の挑戦に敬意を表すると同時に、ともに新たな地平を開くべく全面的に協力させていただく。ご健闘を祈ってやまない。